

友宝

平成21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473300612	事業の開始年月日	平成16年2月1日
		指定年月日	平成16年2月1日
法人名	特定非営利活動法人 友宝		
事業所名	グループホーム友宝		
所在地	(226-0023) 横浜市緑区小山町292-10		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成21年10月28日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○人間を尊重する理念のもと、その方の生きがいに繋がるものを探し、実現する。 ○良い食事の提供。 ○生活のすべて、入居者の方が主人公になれるように、気をつけている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年11月26日	評価機関 評価決定日	平成22年2月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

◇今年度、懸案であった事業所独自の覚えやすい理念「我が家と思えるグループホーム」ほか6項目を、法人理念を基に全職員で作り上げ、管理者、職員は日々理念の具現化に努めている。
◇建物は、基礎材のヒノキの香りが残り、天窓が設置された空気循環換気構造になっている。敷地の南側には大きな落葉樹があり、夏は涼しく冬は日光が奥まで差し込む快適な環境で、利用者は窓際のソファに座ってくつろぐなど、ゆったりと自分のペースで過ごしている。
◇『食物は生きる力(命)の源』と考え、献立には利用者が長年慣れ親しんできた煮物や、庭や近隣の畑で収穫された新鮮な野菜、近海ものの魚を取り入れており、食事は利用者の楽しみとなっている。
◇終末期対応指針を定め、入居時や入居後の状況から判断して利用者・家族に説明し、対象者とは確認書を交わしている。24時間医療連携体制が整い、事業所は終末期指針に基づき、医師と相談しながら『家族と共に過ごす看取り』を実践し、対象利用者は家族が居室に寝泊まりしたり、他の利用者や職員に見守られながら終末期を過ごしている。
◇見守り、掃除、散歩付添いなどに地域ボランティアを積極的に受け入れ、近隣保育園から運動会、七夕、クリスマスに招待を受けたり、保育園児を敬老の日行事に招待するなど、地域とは密接に交流している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム友宝
ユニット名	のどか

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフ対象に、研修・合言葉作りを行う。その後、法人理事長を含め、合言葉の完成をする。管理者会議、カフェを通じ、スタッフに浸透させる。相談室に掲示してある。	・懸案であった独自理念は、法人理念を基に全職員で6項目に簡潔に纏めて完成させた。管理者と職員は日々、その理念の具現化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スタッフは地元からの採用が多い。また、地元自治会に参加。買い物を地元優先。ホーム建設も地元建築業者。大家さんも地元。毎日の散歩で、日常のお付き合いあり。	・見守り、掃除、散歩付添などに地域ボランティアを積極的に受入れている。 ・近隣保育園の運動会・七夕行事に招待されたり、事業所が園児を敬老の日の行事に招待するなどの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の行事、近くの保育園や幼稚園の行事に積極的に参加して、地域貢献している。また、行政、地域包括支援センターとも協力して、見学会、講演会などに協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で、災害時対応や、認知症の啓発活動についての提案がされている。具体化については、今後である。	・利用者家族、地域代表、地域包括支援センター、事業所で構成し、年3~4回開催している。災害対策について提案を受けたり、事業所の避難訓練に地域住民から参加の意向があった。	・運営推進会議で「地域徘徊高齢者SOSネットワーク」の情報が出されました。利用者の安全対策としてネットワークの活用を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ブロック連絡会に、区担当者の参加があり、そこで、交流あり。	・緑区主催の施設見学会を積極的に受け入れている。 ・区役所とは常に連絡を取り、事業所の実情を伝え、現在スプリンクラー設置に向けた相談をしている。	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カフェ時に、適時、話し合いをして、拘束に繋がらないケアの実行をしている。玄関の施錠は、時間帯で対応。日常は、内からは開けられ、外からは、開けられないようにしている。	・職員は身体拘束の弊害を話し合い、拘束のないケアを行っている。 ・一人での外出を希望する利用者については自由に外出してもらい、安全に配慮して職員が離れて見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、報告し、言葉や態度などについて話し合いをもち、防止に努めている。オープンで介護しているので、何かあったらすぐわかる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に必要な方がいるので、相談、活用し、利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会を開き、説明し、質問を受ける機会を作っている。参加できない方には、文書で、郵送し、理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の通信、お手紙で、また、来訪時・家族会で、情報提供し、伺っている。出された、意見は、毎月のカフェ・管理者会議、理事会に反映している。	・利用者の要望は会話や様子から汲み取っている。 ・家族会や家族来訪の機会を大切に考え、話しやすい雰囲気作りに努めている。 ・聞き取った要望や意見は、会議で検討している。	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファや管理者会議に管理者、法人事務局長、理事の参加があり、反映できる機会がある。	・各種会議や施設長との面談は話しやすい雰囲気で行われており、職員からは活発に意見や提案が出され、業務改善に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人理事会、法人労務担当者会議があり、環境・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、資格取得試験に挑戦者がある。また、可能な限り、研修に参加する機会を設け、率先している。資格取得者には、手当てがある。資格のないスタッフの手厚い対応必要。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	連絡会に入り、交流を深めている。地域のGHとも、運営の交流など、行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報をスタッフが共有する、会議・文書がある。担当者を中心に、話を伺い、気持ちが安定するよう、対応している。居室、座る椅子の場所など検討している。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず、入居時、又、前に面接し、聞く機会を設けている。センター方式シートで、情報提供していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネジャーとも相談し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声かけをしたり、時間の許す限りゆったりと一緒にお茶を飲んだり昔話に花を咲かせたりして関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆が1番大切なので、入居者様の様子などを話し支えていく関係を築いている。家族会への参加が多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に気軽に来て頂いたりしている。面会などあった場合、スタッフも様子などを話し、支援に努めている。	・馴染みの方に気軽に来訪いただけるように、家族にも働きかけている。法事、墓参の希望などを家族に伝え、家族とも出かけている。馴染みの床屋、美容院には希望があれば職員が付き添っている。	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の相性に合わせて、係わり合いの中で、孤立せず、支えあうように努めている。和の橋渡しをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙が届くなどしている。		
III 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出希望、趣味の希望など聞き、努めている。	・入居時に本人、家族から意向や趣味などを聞き、入居後の支援に活かしている。入居後は家族の要望や、日々の生活の中で本人との会話や表情、様子から意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常での会話の中で、また、入居時の家族からの情報提供で把握している。時々、バックグラウンドを読み直している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事仕事の好きな人、草むしりの好きな人、掃除のできる人などその時の心理状態に合わせてできることをしてもらっている		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファ、臨時カンファ、また、家族と相談、家族にカンファに出してもらうなどして、対応。連携している、医療機関とも相談をしている。	・介護計画は本人・家族の意向や意見を取り入れて作成し6ヶ月に1回見直している。 ・全職員で毎月カンファレンスを行い、利用者の状況変化などがあったときは現状に即して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録に記入し、重要事項を申し送るようにし、ケアの見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティア、入居者が通っている医療機関、自治会、理事の方、地元の商店など協力いただきながら、ニーズをあきらめないで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、保育園の催しに参加したり、散歩の途中の交番やコンビニ、店などに支援をお願いしている。地元の商店や農家で米を購入している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	何かあれば、かかりつけ医に連絡相談し、適切な医療を受けられるように支援している	・従来のかかりつけ医を希望する場合は継続受診を支援している。医療連携体制があり、24時間対応している。内科と歯科の往診を月2回、訪問看護を週1回受け、利用者の健康管理に努めている。	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護、また、24時間対応できるので、適切な対応が出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換。相談は行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適時、家族・医療機関・ホームの3者で話し合いを持っている。	・終末期対応指針があり、入居時や必要時に利用者・家族に説明している。 ・対象者家族と確認書を取り交わし、家族や提携医療機関と相談しながら看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修、また、看護師より、応急手当の方法など、受けている。 緊急連絡体制やマニュアルを作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と協力し、訓練を行っている。又、近くの自治会と相談、相互協力の話し合いをしている。	・夜間対応の災害訓練を事業所独自で行い、問題点を確認した。今後地域住民の協力を得て共同訓練を実施したい意向である。	地元消防団とは相談できる関係ができています。非常時に備え、近隣地域との話し合いで協力体制が実現することを期待します。

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格の尊重と、会話中での誇りやプライバシーを損ねない言葉かけなど対応している。	・個人情報の保護、プライバシーに関しては、職員は採用時に研修を受けている。 ・言葉かけなどに疑問があった場合は職員間でロールプレイを行って事例検討し、気づきに結び付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で、自己決定できる対応をするように、カフェ時などで、話し合いをもっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ都合にいきがちな場面が生じる時、その都度、話し合いをし、希望にそえる対応できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔時に、鏡を見ておしゃれや身だしなみをしたり、入浴後のおしゃれ、ズボンからの下着がでていれば、さり気なく、直したりして支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常、行事の時も一緒に行っている。献立会議を月1回開き、相談している	・利用者のできることを尊重し、調理の下ごしらえ、盛り付け、配ぜん、後片付け等を行って貰っている。 ・利用者に旬の素材を生かしたメニューの希望を聞き、地元の商店と一緒に買出しに行っている。	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関とも相談しながら、また、栄養指導を受けながら、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の歯科往診で対応、また毎食後のケア、入居者にあわせて、ケアしている。特に、昼食後は念入りにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを知り、個別対応している。トイレでの排泄を出来るだけしていただくケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェックリストで排泄パターンを把握し、自立できるようにタイミングを計って声かけしている。 ・利用者の希望で布パンツや紙パンツを選んで使用してもらい、安心して過ごせるように支援している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、医療機関と、相談しながら、個別対応している。また、便秘にならないよう、牛乳、プルーン、フルーツ、野菜を多く取り入れる食事になっている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日時間帯を決めてはいないが、1日おき、2日おきに入っていたり、支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り希望に沿った入浴を提供しているが、夜間希望に対しては安全性を考慮して日中入浴をお願いしている。入浴を好まない方には声かけを工夫するなど手法を変えて誘っている。 	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早寝、遅寝など生活習慣の違い、お昼寝する方など、その方にあわせて、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員がわかるよう、処方箋ファイルしてある。確実に飲んでいるか、見守りの徹底などしている。又、経過観察もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごと、全員の入居者様ができるわけではないが、それぞれの力を生かし、気分転換など、支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩しているが、それ以上に外出の希望があればスタッフ、ボランティアとともに外出し、個別支援している。また、法人・家族に相談して、外出している。	・散歩は近隣の公園に出かけたり、紅葉見物や大型園芸店にドライブしている。月1回は全員で外食し、希望に副って近隣の喫茶店にも出かけている。個別外出支援はボランティアにも依頼している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は、金額を把握させてもらっている。買い物は本人の希望の添ってしている。時には、家族と相談して、対応することもある。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下など、散歩でいただいた、花や庭に咲いている、草花で季節感をあじわっている。大きな音をたてないようにしている	・庭の南面には落葉樹があり、リビングは夏涼しく冬暖かく、ソファやテーブルが複数用意され、利用者は好みの場所で過ごしている。 ・適宜温湿度を調整し、話し声や音量にも配慮している。	
		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、ベンチ、テーブルなど、気分により、また、用途により、選べるように、対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にあった、家具の配置と転倒防止の配慮、趣味などの飾りで工夫している。	・居室には仏壇やテレビなど馴染みのものを持ち込み、家庭的雰囲気に配慮している。 ・折り紙作品を部屋の壁いっぱいには飾る人、簡素で清潔な雰囲気を好む人などそれぞれの好みで暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は物をおかず、車椅子の方も一人で動けるようにしている。居室に大きめに書いた名札があり、分かるように工夫している。		

事業所名	グループホーム 友宝
ユニット名	そよかぜ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフ対象に、研修・合言葉作りを行う。その後、法人理事長を含め、合言葉の完成をする。管理者会議、カンファを通じ、スタッフに浸透させる。相談室に掲示してある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スタッフは地元からの採用が多い。また、地元自治会に参加。買い物を地元優先。ホーム建設も地元建築業者。大家さんも地元。毎日の散歩で、日常のお付き合いあり。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の行事、近くの保育園や幼稚園の行事に積極的に参加して、地域貢献している。また、行政、地域包括支援センターとも協力して、見学会、講演会などに協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で、災害時対応や、認知症の啓発活動についての提案がされている。具体化については、今後である。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ブロック連絡会に、区担当者の参加があり、そこで、交流あり。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファ時に、適時、話し合いをして、拘束に繋がらないケアの実行をしている。玄関の施錠は、時間帯で対応。日常は、内からは開けられ、外からは、開けられないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、報告し、話し合いをもち、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に必要な方がいるので、相談、活用し、利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会を開き、説明し、質問を受ける機会を作っている。参加できない方には、文書で郵送し、理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の通信、お手紙で、また、来訪時・家族会で、情報提供し、伺っている。出された、意見は、毎月のカンファ・管理者会議、理事会に反映している。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファや管理者会議に管理者、法人事務局長、理事の参加があり、反映できる機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人理事会、法人労務担当者会議があり、環境・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、資格取得試験に挑戦者がある。また、可能な限り、研修に参加する機会を設け、率先している。資格取得者には、手当てがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	連絡会に入り、交流を深めている。地域のGHとも、運営の交流など、行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報をスタッフが共有する、会議・文書がある。担当者を中心に、話を伺い、気持ち安定するよう、対応している。居室、座る椅子の場所など検討している。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず、入居時、又、前に面接し、聞く機会を設けている。センター方式シートで、情報提供していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネジャーとも相談し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声かけをし、共に暮らしづくりをしている。入居者様が「我が家」と言ってくれたり、スタッフの表情をみて、いたわってくれたりしている場面があるので、築けていると判断している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の送迎、行事への参加以外、ターミナル時の泊まりなど、ともに、本人を支えあっている対応をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方は外出時、知り合いにあったり、また、訪問や電話、手紙などで、交流している。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で関係を持てる場合は、それを大切にし、また、関係が良くない場合は、スタッフが間にはいるようにしている。また、話題や歌など集えるきっかけづくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡、相談があれば、対応している。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の出番、希望がないか、常に把握するように、している。お花の管理、掃除の担当、料理の手伝い、紙のカット、新聞たたみ等。一人での外出なども家族と相談して実現している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常での会話の中で、また、入居時の家族からの情報提供で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、毎週の訪問看護で、心身状態を、把握している。日々の生活の様子での把握、言動などで把握している。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファ、臨時カンファ、また、家族と相談、家族にカンファに出てもらうなどして、対応。連携している、医療機関とも相談をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録に記入し、重要事項を申し送るようにし、ケアの見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティア、入居者が通っている医療機関、自治会、理事の方、地元の商店など協力いただきながら、ニーズをあきらめないで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、保育園の催しに参加したり、散歩の途中の交番やコンビニ、店などに支援をお願いしている。地元の商店や農家から米を購入している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を聞き、対応している。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護、また、24時間対応できるので、適切な対応が出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換。相談は行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適時、家族・医療機関・ホームの3者で話し合いを持っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修、また、看護師より、応急手当の方法など、受けている。緊急連絡体制マニュアルを作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と協力し、訓練を行っている。又、近くの自治会と相談、相互協力の話し合いをしている。。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行い、又、カフェ時に話し合いをし、適切な対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で、自己決定できる対応をするように、カフェ時などで、話し合いをもっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ都合にいきがちな場面が生じる時、その都度、話し合いをし、希望にそえる対応できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットは、希望に応じ、床屋、美容室、訪問カット等、対応している。家族と相談しながら対応している。服装も本人意向を尊重している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常、行事の時も一緒に行っている。献立会議を月1回開き、相談している		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関とも相談しながら、また、栄養指導を受けながら、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の歯科往診で対応、また毎食後のケア、入居者にあわせて、ケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを知り、個別対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、医療機関と、相談しながら、個別対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、お風呂を沸かし、気持ちよく入浴できるように対応。拒否の方も、気持ちよく入れるよう工夫を怠らないよう、努力している		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スタイルを知り、対応している。昼夜のメリハリをつけ、入居者の持っている能力を生かせる工夫をし、努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当、及び、その日の日勤・夜勤が責任を持つ。また、処方箋ファイルで、確認する。薬局、医師の指示を受け、又相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の管理、お茶いれ、洗い物、片付け等、役割があり、編み物、縫い物など好きな事などしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日散歩しているが、それ以上に外出の希望があればスタッフ、ボランティアとともに外出。また、法人・家族に相談して、外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は、金額を把握させてもらっている。買い物は本人の希望に添ってしている。時には、家族と相談して、対応することもある。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからの、窓の景色は四季折々の風景が楽しめる。テラスも花など絶やさないようにしている。「トイレ」など札をつけ分かりやすいように、対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、ベンチ、テーブルなど、気分により、また、用途により、選べるように、対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人あった、家具の配置と転倒防止の配慮、趣味などの飾りで工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は物をおかず、車椅子の方も一人で動けるようにしている。居室に大きめに書いた名札があり、分かるように工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム友宝作成日 平成22年2月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時訓練は、年3回行っているが、人員数において、不安がある。	夜間時でも、安心して対応できるような体制にする。	地域の方と協力体制が取れるように、相談をしていく。地元自治会や、近隣自治会を訪問し、相談する。地元の避難訓練に参加をする。	12ヶ月
2	35	災害時の指揮命令系統において、新人スタッフ等がいる中でのローテーション勤務形態であり、安心・安全な、誘導體制の充実が求められる。	日中、及び、夜勤時の指揮命令系統のマニュアルの徹底を、避難訓練などに、周知徹底させる。	指揮命令系統の徹底が図れるように、避難訓練時に、マニュアルの実施訓練を行う。初任者研修の内容に、盛り込む。	12ヶ月
3	35	災害時備蓄品が、充実していない。	災害時備蓄品を揃える。	ホーム内に災害時備蓄チームを作り、具体化を図る。	6ヶ月
4	3	地域に認知症を知らせ、貢献する取り組み実施までの余裕が、今までは無かった。	行政、地域包括支援センター、民生委員等と連携をとり、具体化を進める。	年間、3回以上できるようにする。	12ヶ月
5	4	「地域徘徊高齢者SOSネットワーク」の充実に貢献したい。	「地域徘徊高齢者SOSネットワーク」を知り、当グループホームに必要な、相談をし、対応する。	管理者会議または、ユニット毎の毎月のカンファレンスで、検討し、具体化を計る。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。